

平成29年5月27日(土)

老球の細道329号

ユーモアと現実

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今は亡き作家・井上ひさしは表現の極意として有名な言葉を残している。

「難しいことを簡単に、簡単なことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に」。難しいことを面白くするところにユーモアのセンスが表れる。ユーモアセンスは一流のコーチのみならず一流の人物のたしなみでもある。また、世界最強、世界最モテモテ男007ことジェームズ・ボンドはどんな危機に陥ってもユーモア、ジョークを忘れない。そして危機を回避し、難問を解決し、超美人をゲットする。まさに理想の男性像である。ちなみに、ユーモアとは「人間生活ににじみ出るおかしみ、上品なしゃれ」(岩波国語辞典)。

毎年アメリカのハーバード大学で「イグ・ノーベル賞」の授賞式がある。2013年には日本人研究者が「医学賞」と「化学賞」を受賞した。

イグ・ノーベル賞とは、ノーベル賞のパロディー版として、世界中のさまざまな分野の研究から「人々を笑わせ、そして考えさせる業績」に対して贈られる賞である。「イグノーベル(Ig Nobel)」とは、ノーベル賞の創設者アルフレッド・ノーベルの姓に否定的な接頭語「Ig」をつけた造語で、下等な、下品な、見下げたと言う意味の「Ignobel」を掛けたジョークである。イスラエルのある雑誌の編集者が創設した。ユーモアと笑いにあふれる授賞式は毎年ハーバード大学で行われる。受賞者の出席費用はすべて自費で、スピーチでは必ず聴衆を笑わせなければならない。

その年日本人で医学賞を受賞したのは帝京大学医学部の教授らだ。マウスの腹に別の心臓を移植すると、その心臓は免疫の拒絶反応で8日後に鼓動が止まる。ところが、手術後にオペラ「椿姫」やモーツァルトの音楽を聴かせると平均26・5日、最長で100日も心臓が動き続けた。音楽が脳を介して免疫反応に影響を与えるという研究である。

化学賞に選ばれたのはハウス食品の研究。タマネギを切ると涙が出てくる。この涙を起こす酵素を発見し、この酵素を働かなくさせ、風味の成分はそのまま涙が出ないタマネギを開発した。しかし、そのタマネギは遺伝子組み換え技術を使ったため「今のところどれも食べていない」という。

過去の日本人の受賞で記憶に新しいのは、1997年にバンダイが開発した「たまごっち」が経済学賞、2004年には「カラオケ」が平和賞を受賞している。ユーモアやパロディーの発想で、今までにない奇抜なことが世の中にたくさんデビューしている。

現役教員時代、保健の授業において、ある生徒から注文を受けた・

少女A：「先生、たまには教科書を授業で使ってください」。

室井T：「何言っているの。教科書以上の面白いことをたくさん話しているよ。教科書なんか読んだら“はい、その通り”で終わりだよ。私の保健の授業は今まさに世の中で問題になっていることをリアルタイムでとりあげているんだよ。それにジョーク、ギャグ、ダジャレが盛りだくさんだろう。私は面白いんだけど、面白くない？」。

少女A：「だって教科書をやらないと試験の点数とれないですもの」。

ユーモアは、ユーモアを解せる能力と余裕のある人間にしか通用しないことを肝に命じなければならない。今までこの現実を理解しないで何度人間関係を悪くしたことか。